

ほのか通信 2013 春



ほのか通信 第2号 発行責任者 富田 猛

皆様、こんにちは(^^)「男鹿葬祭ホールほのか」の富田猛です。
 ようやく男鹿にも春がやってきましたね。この時期は出会いと別れの季節でもあります。いろいろな所で送別会や歓迎会が開かれていますよね。小学校に入学したばかりのピカピカの一年生を見ると、まだ小さい体に大きなランドセルを背負って歩いている姿を見ると、なんだか微笑ましい光景です。

葬祭ディレクターとは？

さて今回は「葬祭ディレクター」という資格についてご紹介いたします。「葬祭ディレクター」とは、葬祭業界に働く人に必要な知識と技能のレベルを示す称号です。この資格は残念ながら国家資格ではないので、ある程度の条件が揃えば受験することができます。この資格は、厚生労働省認定葬祭ディレクター技能審査試験に合格すれば得られ、称号は1級葬祭ディレクターと2級葬祭ディレクターの二種類があり、1級は葬祭実務経験が5年以上、2級が実務経験2年以上です。全国に三か所ある専門学校に二年間行けば受験資格が得られます。試験は毎年一回、同じ日に全国の8会場で実施されます。

試験内容は(葬儀の歴史・遺体の処置・感染症・葬儀の知識・社葬・団体葬について・日本の宗教の概要・宗教儀礼・相続・遺言・海外の葬儀事情・仏壇・お墓・戒名・お布施・関連法規…)等など非常に多岐にわたります。学科、実技で構成されます。ちなみに1級を取得する場合には、すべての知識、社葬、団体葬を取り仕切るレベルで、2級は個人葬を取り仕切るというものです。

私は、受験可能であった実務経験5年以上ありましたので、1級を取得しました。この受験を受けるために、厚さ約3センチ程の参考書「葬儀概論」という本を読みあさり、過去問題を何度も繰り返し、ようやく手にした資格。合格通知が来たときは、涙が出る位うれしかったのを覚えていますが、今でもこの参考書を読んだりしています。



し、ようやく手にした資格。合格通知が来たときは、涙が出る位うれしかったのを覚えていますが、今でもこの参考書を読んだりしています。



まめ知識

仏壇

(仏壇の材料による分類)葬儀概論より



仏壇の材料は木ですが、塗り仏壇(金箔押し仏壇、俗にいう金仏壇)と唐木仏壇に分けられます。また、新しい仏壇として、合板、プラスチック、アルミなど新しい素材の仏壇(新仏壇)も登場しています。家具調仏壇というのもありマンションに住んでいる方が購入されるようです。

【塗り仏壇】

杉、松、けやき、ひのきなどの木に漆塗り箔押し仕上げをし、飾り金具、蒔絵を施した仏壇で、江戸時代から用いられました。現在では主として浄土真宗で用いられています。京都、大阪、名古屋が産地として有名です。秋田県では湯沢市川連町が有名ですね。

【唐木仏壇】

歴史的には塗り仏壇より新しく、江戸中期以降に大阪を中心に作られ、特に関東大震災後の仏壇需要をきっかけに量産されました。紫檀、黒檀、ひのき、桜、松などの無垢材、練り材を用います。造作もシンプルで徳島、静岡、会津、東京、名古屋、大阪が産地として有名です。

私も朝起きて顔を洗ってから朝のあいさつに仏壇へお線香を上げ、手を合わせます。また、夜眠る前に二日の感謝として手を合わせます。自宅に仏壇が無い方でも、手を合わせるだけで、ご先祖様に感謝することができます。ご先祖様を大切にすることが大事なのではないでしょうか。